



令和4年5月27日

報道機関 各位

宮崎大学企画総務部総務広報課長

B-JET及びB-MEETの事業連携に関する協定および覚書の締結式を実施します

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、国立大学法人宮崎大学とBJIT Group(東京、バングラデシュ・ダッカ)、グローバルギークス株式会社(BJIT Group)および株式会社ビーアンドエム(宮崎市)は、バングラデシュの高度外国人ICT人材を日本そして宮崎へ導入する「外国人ICT技術者人材育成プログラム:B-JET(Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program)」、および宮崎市を代表とするJICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)「宮崎-バングラデシュICT人材育成事業:B-MEET(Bangladesh-Miyazaki ICT Engineers' Educational Training)」の各事業における連携事業体として、各々の資源・経験を活用した協働を推進するために、下記のとおり締結式を実施して協定ならびに覚書を結ぶこととしました。これにより、各事業における産学官連携体制が強化されて、宮崎の地域と産業の国際化と更なる活性化に寄与することが期待されます。

つきましては、当日取材していただき、記事として取り上げていただければ幸いに存じます。

敬 具

記

○ 日 時: 2022年5月30日(月) 11:00~11:45

○ 場 所: 宮崎大学地域デザイン棟

○ 出席者: 宮崎大学: 鮫島 浩/宮崎大学長、村上 啓介/副学長(国際連携担当)

BJIT Group: ジェエム アクバル・創業者・代表取締役会長(オンライン)

グローバルギークス(株): 明石 康弘/代表取締役社長

株式会社B&M: 荻野 紗由理/代表取締役社長

○ 次 第:

B-JET及びB-MEETの事業連携に関する協定および覚書 締結式

1. 宮崎大学とBJIT Groupとの間における事業連携に関する協定書の調印

① 宮崎大学長 挨拶

② BJIT Group代表 挨拶

③ 調印・締結

2. 宮崎大学とグローバルギークス(株)、および(株)ビーアンドエムとの間における連携業務に関する覚書の調印

④ 宮崎大学副学長 挨拶

⑤ グローバルギークス(株)代表 挨拶

⑥ (株)ビーアンドエム代表 挨拶

⑦ 調印・締結

3. 閉式、報道機関取材、意見交換

○ その他: 資料は、当日配布いたします。会場内には記者席等を用意しておりますのでご利用ください。

問い合わせ先: 国際連携課 鈴木・ズーブルク

TEL:0985-58-7104

発信元: 企画総務部総務広報課

TEL:0985-58-7114 FAX:0985-58-2886

1. 締結内容

1.1. 協定：1件

- ・ 位置づけ：組織間協定
- 1) 国立大学法人宮崎大学とBJIT Groupとの間における事業連携に関する協定書
 - 相手方：BJIT Limited (BJIT Group代表企業)
署名者：Founder, Representative Director and CEO Akbar JM (ジェエム アクバル)
 - 本学側：宮崎大学
署名者：鮫島 浩 学長
 - 内容：宮崎大学履修証明プログラム「B-JET Basic Course」(2021.10~2024.9)、「B-JET Advanced Course」(2022.4~2025.3)、およびJICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)「Bangladesh国宮崎-Bangladesh ICT人材育成事業(B-MEET)(代表:宮崎市)」(2022.4~2025.2)に関する包括的連携。

1.2. 覚書：2件

- ・ 位置づけ：部局間連携
- 1) 宮崎大学とグローバルギークスとの間における連携業務に関する覚書
 - 相手方：グローバルギークス株式会社 (BJIT Group)
署名者：明石 康弘 代表取締役社長
 - 本学側：宮崎大学 国際連携センター
署名者：村上 啓介 副学長(国際連携担当)
 - 内容：B-JET Basic Course、およびB-MEETにおける具体的な連携、協力事項を定める。
- 2) 宮崎大学と(株)ビーアンドエムとの間における連携業務に関する覚書
 - 相手方：株式会社ビーアンドエム
署名者：荻野 紗由理 代表取締役社長
 - 本学側：宮崎大学 国際連携センター
署名者：村上 啓介 副学長(国際連携担当)
 - 内容：B-JET Basic Course、B-JET Advanced Course、およびB-MEETにおける具体的な連携、協力事項を定める。

2. 概要

2.1. B-JETについて

- ・ 「宮崎-Bangladeshモデル」(2017~2021)は、修了生のうち186名が日本へ就職を支援し、53名が宮崎へ就職した産官学連携高度ICT人材導入事業です。「宮崎-Bangladeshモデル」は、渡日前教育のJICA技術協力プロジェクト「日本市場をターゲットとしたICT人材育成プロジェクトB-JET (Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program)」と、宮崎大学での日本語教育・就職支援短期留学プログラムJIP(日本語×ITインターンシップ・プログラム)から成り、B-JETでは100倍の競争を経て入学した優秀なICTエンジニアが日本語、ビジネスマナー、ITスキルを学び、本学も日本語教員を派遣して支援してきました。
- ・ 2020年10月のB-JET事業終了後、海外協定校North South University(NSU)、宮崎大学を代表とした、BJIT Group、(株)B&M、(株)新興出版社啓林館の産学連携事業体(後援:宮崎市)が、2021年2月にJICAとBangladesh政府機関BCC (Bangladesh Computer Council)よりB-JETを承継しました。

2.2. 現状

- ・ 2021年からは、承継したB-JETとJIPを統合して、それぞれ宮崎大学履修証明プログラム「B-JET Basic Course」、「B-JET Advanced Course」と位置付けて再構築し、(株)新興出版社啓林館の寄附講座「外国人ICT技術者人材育成学講座」を中心に運営しています。
- ・ 2021年10月より開講のB-JET Basic Courseは、最初の1期(2021.10~2022.2)を終えて、およそ運営や流れの目途が立ちました。同修了生が入学するB-JET Basic Courseも2022年4月から開講し、コロナでオンラインでの開始となりましたが、5月末には受講生が渡日して本学で学ぶ見通しです。

2.3. 協定・覚書

- ・ 新型コロナウイルス感染症の中、B-JET Basic Courseはバングラデシュでオンライン開講されました。実施に際して、NSUからは現地日本語講師による指導を受けておりますが、3000人を超える入試選抜、受講生の管理、ビジネスマナー指導においては、産学連携事業体のBJIT Group、(株)B&Mの連携・支援によるところが大きく、本事業において欠くことのできないパートナーとなっております。
- ・ そこで、現地と日本の両方でグループ企業複数社に跨って連携・支援を行うBJIT Groupとの連携協定を締結し、また同グループ内での就業支援実務とグループ全体の日本側窓口を担うグローバルギークス(株)との連携覚書を、また宮崎への就業支援を中心に担う(株)B&Mとの連携覚書を締結いたします。

2.4. B-MEETについて

- 1) JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)
 - 地方公共団体が提案し地域の団体・大学等と連携して、地域の知見・経験・技術等を活用した海外展開と、途上国の開発課題の解決を通じて、途上国および日本の地域の双方の課題の解決に貢献してwin-winの関係を築くことを目指す事業です。
- 2) 事業概要
 - 実施体制: 宮崎市(提案団体)、宮崎大学(実施団体)
 - 予算: 約6,000万円、期間: 約3年間(2022年4月~2025年2月)
- 3) プロジェクト目標
 - バングラデシュ宮崎、双方の経済交流促進体制が整備される。
- 4) 主たる活動
 - ① 宮崎のICT企業団体にバングラのICT企業を理解するセミナー実施。
 - ② バングラのICT企業団体に宮崎企業が求めるスキル・制度などを理解するセミナー実施。
 - ③ バングラの主要人物に対する宮崎での研修を実施。
 - ④ バングラでのICT企業で働く人に、日本語・日本文化・ビジネスマナー等の研修を実施。
 - 対象国バングラデシュのICT企業は日本との業務を望んでおり、一方、宮崎では地域活性化・国際化に課題を抱えている。双方の課題解決のため、対象国の若手ICT人材が宮崎・日本との交流人材となるよう、日本型ビジネスやビジネスマナー、日本語コミュニケーション等を研修し、宮崎企業と対象国の企業との交流機会を設けて双方向の経済・技術・人的な交流を深める。これにより、バングラデシュ宮崎の継続的なヒト・モノ・カネの循環を目指すことで、バングラデシュの経済開発、ならびに宮崎の活性化にそれぞれ貢献する。